



育てます豊かな食とみどりの東京

農 総 研 だ よ り

第11号

平成22年1月発行

財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

第51回 東京都野菜・花き種苗改善審査会 秋から春まで花壇を彩ります

秋から春まで花壇苗として、ビオラやパンジーは消費者に根強い人気があります。都内では秋冬出荷のこれらの苗物の生産の占める割合が高いことから、夏から秋にかけて栽培しやすいビオラの品種を選定する目的で、平成21年10月22日（木）、東京都農林総合研究センターを会場にして、東京都種苗研究会主催「第51回野菜・花き種苗改善審査会‘ビオラ’の部」を開催し、農総研研究員、都農業振興事務所職員、改良普及員、JA職員、種苗会会員ら計15名で審査を行いました。

1 出品点数 24点

2 栽培概要 平成21年7月31日、市販播種用土を詰めたセルトレイへ、1セル1粒播きし、8月6日までの間は、20℃に設定した発芽器内で催芽させた後、換気開始温度13℃のガラス室に移しました。追肥は8月18日、8月25日にそれぞれ液肥（20-20-20）2,000倍液（N=100ppm）を施用しました。9月2日、本葉3～4枚時に3.5号黒ポリポットに1本植えて鉢上げしました。鉢上げ用土は、赤土：腐葉土：ピートモス=5：3：2（体積比）として、基肥は用土100ℓ当たり、被覆複合肥料14-12-14を300g、化成肥料6-40-6を200g、過リン酸石灰0-17-0を250gとしました（用土100ℓ当たり成分量でN=54g、P₂O₅=158g、K₂O=54g）。追肥は10月5日に化成肥料（12-12-12）を鉢当たり1粒施用しました。

3 病害虫防除は東京都病害虫防除指針に沿って実施しました。

入賞をはたしたのは、以下のとおりです。

（園芸技術科）

等級	品 種 名	出 品 社
I	ディージェイ バイオレットブルー	シンジェンタシード（株）
II	ディージェイ パープルホワイト	シンジェンタシード（株）
II	ペニー オレンジジャンプアップ	（株）ミヨシ



II等
ディージェイ パープルホワイト



I等
ディージェイ バイオレットブルー



II等
ペニー オレンジジャンプアップ

第51回 東京都野菜・花き種苗改善審査会 漬物・鍋物にうれしいハクサイです

ハクサイは、秋冬の直売品目の一つとして広く栽培されており、最近では甘くて軟らかく鮮やかな黄芯系が主流となっております。それらの中で有望なものを選定する目的で、平成21年11月24日（火）、東京都農林総合研究センターを会場にして、東京都種苗研究会主催「第51回野菜・花き種苗改善審査会‘秋まきハクサイ’の部」を開催し、農総研研究員、都農業振興事務所職員、改良普及員、JA職員、種苗会会員ら計20名で審査を行いました。

1 出品点数 11点（内、参考品種3点）

2 栽培概要

(1)供試圃場 洪積土圃場（表層腐植質黒ボク土）前作スイートコーン

(2)播種 平成21年8月25日128穴セルトレイに播種し、9月14日定植しました。黒マルチを使用し、ベッド幅70cm、通路70cm、2条（3,200株/10a）で作りました。定植直後から10月8日まで防虫ネット（目合い0.7mm）でトンネル被覆をしました。肥料は、基肥として9月9日にN-P₂O₅-K₂Oを成分量で各12kg/10a、10月14日にN-P₂O₅-K₂Oを成分量で各4kg/10a追肥しました。

3 病害虫防除は東京都病害虫防除指針に沿って実施しました。

入賞をはたしたのは、以下のとおりです。

（園芸技術科）

等級	品 種 名	出 品 社
I	カネコ交配 黄将白菜	カネコ種苗株式会社
II	タキイ交配 THA-468	タキイ種苗株式会社
III	タキイ交配 THA-436	タキイ種苗株式会社



カネコ交配 黄将白菜

～苗木生産を支えます～

緑化苗木生産のための施肥管理試験

東京都では、緑化推進のために苗木生産の供給事業を実施しています。委託先の生産現場では、苗木が思うように生育しない、木の幹（胴体部分）が割れる、葉が黄色くなって元気がないなどの声を聞きます。これらは、肥料の施用量や施用時期、pHが高いことが原因と思われるため、土壌肥料チームでは問題点を2つに絞り、①生育量と窒素肥料の吸収量、②土壌のpHと生育との関係を調べて、生育量の制御や黄色くなったときの対策について研究を進めています。

今後、研究成果は検討会などを通して生産農家に報告していきます。

（生産環境科）



無施用 基準施用 倍量施用



写真左：窒素の施用量を変えて苗木の生育に必要な窒素施肥量を評価するための試験

写真右：12月3日に生産者と実施した試験研究成果の検討会

～プラムポックスウイルス～ ウメに発生した新病害

2009年3月、都内のウメにおいてプラムポックスウイルス（PPV）による病害の発生が国内で初めて確認されました。このウイルスは、主に Prunus 属の果樹（アンズ、スモモ、ネクタリン、モモなどの核果類）を宿主植物とし、主にヨーロッパや北米でモモやスモモに被害が生じています。現在のところウメでは花卉にピンクの斑が入ったり、葉が退緑斑点や輪紋となる症状が見られますが、果実の収量低下や早期落葉など生育への影響は認められていません。このウイルスは植物のみに感染するもので、感染樹の果実を食べても人を含む動物へはまったく影響ありませんが、国内の非感染地域への拡散や発生地域での蔓延を防がなければなりません。そこで、蔓延防止にはウイルスを伝搬するアブラムシの防除が重要になります。果樹園や庭木でウメを所有されている方は、アブラムシの適切な防除をお願いします。

生産環境科病害虫管理チームでは、「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の中で、国や大学など専門機関と共同で、PPV の発生分布、ウイルスの性質や宿主範囲、発生地域におけるアブラムシの発生動向や種類の解明に取り組んでいます。ウイルスの系統や侵入および伝搬の経路などを明らかにすることにより、効果的な防除法の早急な確立を目指しています。

（生産環境科）



（左）
花卉の斑入り



（右）
葉の輪紋症状

PPV 感染によるウメの症状

～森林浴でリフレッシュ～ 森林セラピーロード〈奥多摩町〉を視察しました！

秋晴れに恵まれた11月6日、保科センター所長以下4名で、奥多摩町に5つある森林セラピーロードのひとつ「香りの道 登計トレイル」を視察しました。

当日は、業務が忙しい中、担当されている奥多摩町観光産業課の原島森林保全活用係長と河村主任から説明と案内をしていただきました。

「香りの道 登計トレイル」は、奥多摩駅から徒歩約15分のところにある日本初の森林セラピー専用ロードです。

コースは距離1.3km、高低差50mで、コースのなかにヨガや座禅ができる広場やセルフカウンセリング、星空浴を行う施設などが整備されています。



香りの道に設置されたテラス



車椅子専用のモノレールの案内を受けています。

森林セラピーの利用は日帰りでも1泊2日でも可能で、そのメニューはガイドウォーク、ストレッチ、蕎麦打ち、木工、陶芸などがあります。さらに、効果的な森林セラピーの運営を目的に、大学や研究所などとの連携にも取り組んでいます。森林セラピーに懸ける奥多摩町の熱意に感動した視察でした。

この視察を、今後の研究に活かしたいと考えています。

（緑化森林科）

～江戸川で亜熱帯植物が見られます～

展示温室の植物を一部リニューアル！

見学時間：

平日の午前9時～午後5時(入場無料)



平成3年に開設された江戸川分場の展示温室(施設面積505平方メートル)は、伊豆諸島から小笠原諸島で生産される観葉植物や亜熱帯性の果樹・花き類の展示栽培を通して、島しょ地域農業の紹介と遺伝資源の保存を行ってきました。小学生の社会科見学、学校PTAの施設見学会などをはじめ、たくさんの都民が見学に訪れています。このたび、開設から18年を経過し、一部の植物が大きくなり過ぎたことから、次のような新しい植物への改植を行いました。

果樹類：パッション、マンゴー、パパイヤ、ジャボチカバ、ゴレンシ、パイナップル、ミラクルフルーツなど。

花き類：デンドロビウム ファレノプシス(デンファレ)、ブルメリア、ヘリコニアなど。

その他：サトウキビ、バニラなど。

今後も、展示内容の充実に向けて取り組んでいきます。

是非ご見学下さい。

(江戸川分場)

～第5回くだもの新品種プラットフォーム～

カキ‘東京紅(とうきょうべに)’が評価第3位に！

平成21年11月5日(木)、ホテルコムズ大田市場にて『第5回くだもの新品種プラットフォーム「晩秋を楽しむ果物ブランドの味覚」』が開催され、当センターからカキの新品種‘東京紅’を出展しました。

仲卸、市場、小売店、料理研究家など182名の参加があり、その内の128名からアンケート回答がありました。その結果、注目品種として第3位に‘東京紅’が4位以下に大きな差をつけ入りました。

‘東京紅’の特性である「色の美しさ」「甘くて味が良い」などが高く評価されたうえに、「東京特産の果実」というのに大きな驚きを持たれました。‘東京紅’という名前も東京産と分かり易く、東京産の果物を食してみたい気になるとの高い評価を受けました。

次年度の生産は本年度より大幅に増すことが見込まれており、次年度にはより多くの人に楽しんで頂けると期待しています。(園芸技術科)



好評を得た試食風景

～東京農業の担い手を求めています～

平成22年度農業技術研修生募集のお知らせ

農林総合研究センターでは東京農業の発展を支え、技術革新・情報化に対応した農業経営者を育成するために農業技術研修を行っています。平成22年度の農業技術研修生を下記のとおり募集しますので、お知らせします。

- 1 募集人員 園芸コース(野菜・花き・果樹・植木専攻)：若干名、畜産コース：若干名
- 2 研修期間 1年間
- 3 応募資格 高等学校を卒業した者及びこれと同等以上の学力のある者。
原則として、40才未満で都内の農業後継者。
- 4 受付期間 平成22年2月1日(月)～2月12日(金)
- 5 申し込み先 東京都農林総合研究センター 研究企画室 TEL：042-528-5216
- 6 必要書類 受講申込書(6ヵ月以内に撮影した縦40mm×横30mmの無帽上半身写真を添付)・履歴書・住民票・最終学歴の卒業(見込み)証明書、健康診断書・作文など。

詳しくは、ホームページをご覧ください。応募書類は、1月上旬頃市町村農事主務課、JA本店及び農業高校等に配布する予定です。

(研究企画室)

(発行者) 東京都農林総合研究センター 保科次雄

財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285

<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html>

皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。